

【実践報告】

公立小学校教員採用試験などに向けた取組の実際

広島文教大学教育学部教育学科

准教授 長 澤

希

1 令和5年 教員採用試験対策チャレンジセミナーの実際

本学では、学生が主体となって教員採用試験に向けた取組を行っており、各ゼミや受験する自治体別の勉強会のほかにも、学生からの依頼を受けて本学教員がチャレンジセミナー（以下、セミナー）を実施している。セミナーの取組は、課外で行われる自由参加型であり、学生の主体的な学びを教員が支援するものである。開催時期によって春期セミナー、前期セミナー、二次対策セミナーに大別でき、後期には臨時的任用の対策や説明会も行われている。各期のセミナー以外にも、各教員の専門教科・領域等の内容にかかわる指導や、教職センターの教職アドバイザーによる模擬授業や面接の指導は随時行われている。昨年度までは、新型コロナウイルス感染対策のために対面による取組が一部制限されていたが、本年度は全面的に対面による取組が実現した。また、セミナー委員をはじめ各県人会の学生の努力と創意工夫によって取組を継続することができた。以下、本年度の取組の概要を報告する。

1.1 春季セミナー

春期休業中には春期セミナーが実施された。昨年度と同様に、事前に学生のセミナー委員がMicrosoft formsを用いて各学生へ開講を希望する講座を調査し、その結果を集計・検討して教員への依頼を行いながら時間割を調整していた。完成した時間割はLINEを用いて各学生へ通知された。

令和5年2月14日（火）の2コマに、まずはスタート会が行われた。学生と教員70名以上が参加した。その後、3コマの時間帯から春期セミナーが始まった。春期セミナーは3月10日の3コマまで続き、同日の4コマには振り返り会が開かれた。

1.2 前期セミナー

4年次前期になると、授業や卒業研究などと並行して前期セミナーが行われる。このセミナーでは継続した取組が必要な内容や1,2回では終わらない内容が主に扱われており、本年度もセミナー委員の学生が事前調査を行って、教員と学生の空きコマに合わせて時間割を組んでいた。本年度、前期セミナーとしてセミナー委員が時間割を作成した内容は表1のとおりであった。表1は、令和5年4月5（水）から6月30日（金）の間に実施した。その他にも、学生個人又は数人の依頼を受けて、教員や教職アドバイザーによる個別指導が行われていた。

【表1：前期セミナーの時間割（セミナー委員調整分）】

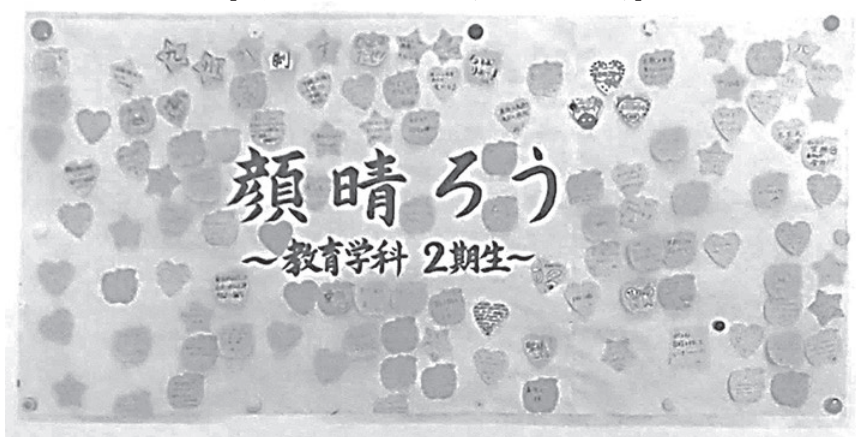
セミナー名	教職教養①	教職教養②	国語現代文演習	図工用具技法
概要	教育原理、教育法規、教育時事、特別支援教育、不登校、中教審令和の日本型教育、改訂法規	情報教育関係、特別支援教育、カリキュラムマネジメント、いじめ不登校キャリア教育、生徒指導、他	広島県の現代文の過去問分析	版画・彫刻・パッチク等専門的技法、過去問分析
計	12回	6回	6回	6回

1.3 夏季セミナー

まず、夏季セミナーへ向けて令和5年6月23日（金）1コマに教員採用試験へ向けての団結式（スタート会）を行った。学生に加えて教員も参加し、試験への意欲と、仲間と団結する気持ちを高めた。昨年度の団結式は6月8日であったが、中等教育専攻の学生が実習と重なっていたこともあり、6月下旬の開催となった。団結式では、本年度新たな取組として、「顔晴ろう～教育学科2期生～」と書かれた模造紙に、各自が付箋に書いた自分自身や友達へのメッセージを貼り、メッセージ集を作成した。作成したメッセージ集は、誰もが自由に寄せ書きができるよう、1号館1階に掲示した。メッセージの数は日に日に増え、学生同士や教員からの激励の言葉やイラストに溢れていった。



【写真1・2：団結式（夏季セミナー）】



【写真3：自分自身や友達へのメッセージ集】

その後は、一次試験が終了した県人会から順に、二次・三次試験の対策を行う夏季セミナーが開始された。本年度の内容は、模擬授業、面接、模擬授業面接、場面指導、英語実技、ICT等であった。

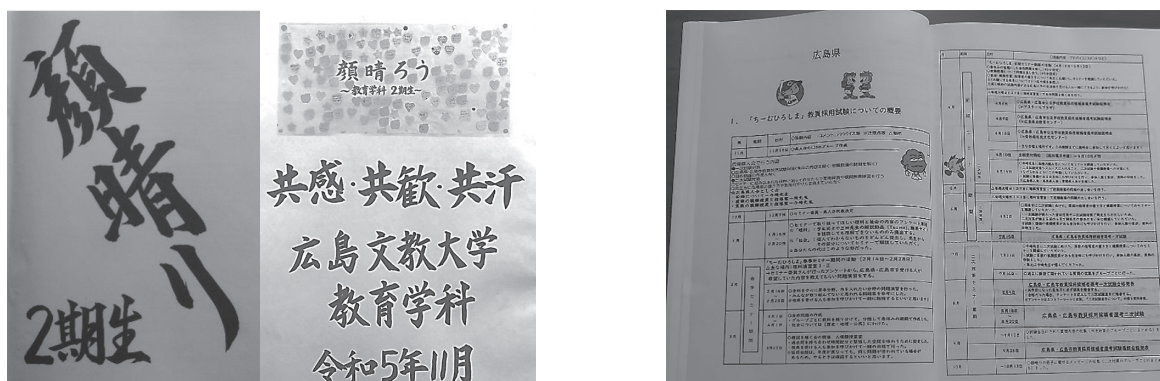
夏季セミナー開始に向けては、各自治体によって試験日や試験内容が大きく異なるため、セミナー委員だけでなく県人会の代表者の協力を得て、予定を組んでいった。本年度のセミナー運営は、初等と中等が一体となっていたこと、セミナー委員と県人会代表者がしっかりと連携を取っていたことが、成果として挙げられる。課題としては、自治体によって試験日程が異なるため、より先を見通して計画を立てることが難しかったという。

2「顔晴り（がんばり）」の取組の実際

2.1 教員採用試験等報告書「顔晴り」

本学では教員採用試験等の報告書を「顔晴り」冊子と呼んでいる。本年度は全181頁で、主には、各期のセミナー、自治体別の学習会と教員採用試験、一般企業採用試験、という内容である。教員採用試験の内容については、各試験に向けた学習方法、試験の実際が詳細に記述されていることに加え、

後輩へのアドバイスが添えられている。「顔晴り」冊子については、本年度は紙媒体を教員と各ゼミ室に配付し、学生へは電子データをユニバーサルパスポートによって配信していた。この冊子は、教員採用試験や一般企業の採用試験を受けようと考えている後輩たちにとって貴重な資料であるとともに、学生の学びを支援する教員にとってもたいへん役立つものである。



【写真4・5：教員採用試験等報告書「顔晴り」】

また、本年度の新たな取組として、「顔晴りの会」のチラシを作成し、学生に配布したり、学内に掲示したりした。このチラシは、小学校現場で活躍する卒業生に、現場で多用されている掲示物作成アプリをセミナー委員が伝授してもらい、作成したものである。このような取組の随所にも、卒業生との関わりが見られていた。

2.2 教員採用試験等報告会「顔晴りの会」

本学では教員採用試験等の報告会を「顔晴りの会」と呼んでおり、本年度は令和5年11月24日（金）の5コマに行われた。全体会は2号館の大講義室で開催され、その後の分科会は大講義室と、1号館の122教室、模擬授業室、書写・図工演習室、理科演習室Ⅰ、理科演習室Ⅱで行われた。



【写真6：「顔晴りの会」のチラシ】



【写真7：「顔晴りの会」全体会】



【写真8：「顔晴りの会」分科会】

全体会では、セミナー委員の代表や教職センター長による挨拶の後、セミナー全般や使用したテキストについての説明と、複数の自治体を併願した者や教員採用試験から一般就職へ変更した者からの報告が行われた。続く分科会では、広島および就職、島根、鳥取、愛媛、九州、中等の6グループを6会場に分散させ、4年生が作成した受験対策ノートや使用した参考書等を紹介したり、1～3年生が学習の開始時期や方法等について尋ねたりしていた。セミナー委員が事前に、1～3年生に受験を考えている自治体や4年生への質問アンケートを収集しておき、その結果をもとに県人会の代表者と共有しながら分科会の準備を行った。昨年度と同様、全体会での自治体ごとの発表を割愛したため、分科会での交流の時間を長く設定できたことで、1～3年生が4年生の話を深く聞くことができた。

3 令和5年度実施_公立小学校教員採用試験の結果

令和5年度に実施された公立小学校等教員採用試験の結果、各自治体の名簿に登載された者の人数を在學生と既卒者に分けて整理したものが表2である。

【表2：公立小学校教員採用試験の結果（令和5年12月11日までに連絡を受けたもの）】

	在學生	既卒者	計
広島県・市	24	7	31
島根県	9	1	10
愛媛県	7	-	7
福岡県	1	-	1
北九州市	4	-	4
長崎県	1	-	1
大分県	2	-	2
熊本県	1	-	1
計	49	8	57

4 成果と課題

本年度は、新型コロナウイルスが5類に移行し、コロナ禍以前のような対面でのセミナーが再開された年となった。それでも感染対策が必要な場面は少なからずあったが、セミナー委員の工夫と努力により、セミナーの新たな試みも創造された。本年度の具体的な成果として、次の三つを挙げる。

一つ目は、前述したとおり、初等教育専攻と中等教育専攻との連携が大幅に改善されたことである。

昨年度は、中等教育専攻の勉強会と教採セミナーとの接続が課題であった。しかし、本年度のセミナー委員は、中等教育専攻から代表一人が副セミナー長になったことで、一体感が生まれた。また、セミナー委員と県人会との連携も強化された。

二つ目は、卒業生と4年生とのつながりが見られたことである。二次対策の模擬授業場面指導においては、卒業生が4年生の指導に来てくれた。また、臨時採用で頑張っている卒業生が、4年生に混ざって模擬授業や面接練習に参加していた。これらは、卒業生及び4年生の双方の刺激となった。

三つ目は、本年度新たな取組が生まれたことである。こちらも前述したとおり、メッセージ集の掲示や「顔晴りの会」のチラシの作成である。これらは、本年度の学生ならではの取組であった。

また、本年度の教員採用試験の結果は、総じてほぼ好調であった。

今後の課題は、教員採用試験の早期化に伴うセミナー運営の再構築である。本年度は既に3年次で受験可能な自治体の試験に挑戦した学生もいるが、早期化に対応できるセミナーの体制が整わない状況での実施となった。今後はこれまで以上に、学生同士の縦のつながりを強化していくとともに、セミナーや県人会、ゼミでの勉強会など、集団での学びを更に広げ、受験への意識づくりを早い段階から継続して行っていくように検討を続けたい。

参考・引用文献

- ・三田幸司「公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実際」（『広島文教大学 教職センター年報 第11号』広島文教大学教職センター、令和5年所収）